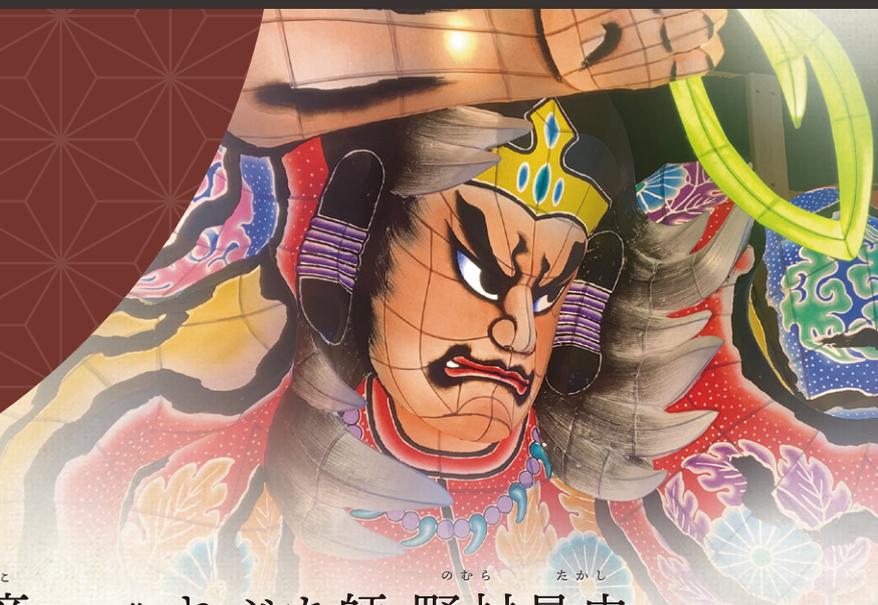


1F ロビーにて展示中

ねぶた



うみさちひこ やまさちひこ のむら たかし
題名 『海幸彦と山幸彦』 作 ねぶた師 野村昂史

弟・山幸彦



兄・海幸彦

絶景の宿 浅虫さくら観光ホテル
アートホール (ねぶた)

2024. 5. 31 「山幸彦 海幸彦」
野村 昂史

解説

どんな魚でも釣り上げる兄の海幸彦と、どんな獣でも捕まえる弟の山幸彦の兄弟がいました。ある日、弟が兄の大事にしていた釣り針を海に落とし失くしてしまい、許しを乞う弟とそれを許さなかった兄はやがて争うようになりました。見兼ねた海の神ワダツミの計らいにより、やがて兄弟は仲直りし平和な生活に戻りました。

そして、その兄弟の子孫達も平和に過ごしたという日本の昔話です。



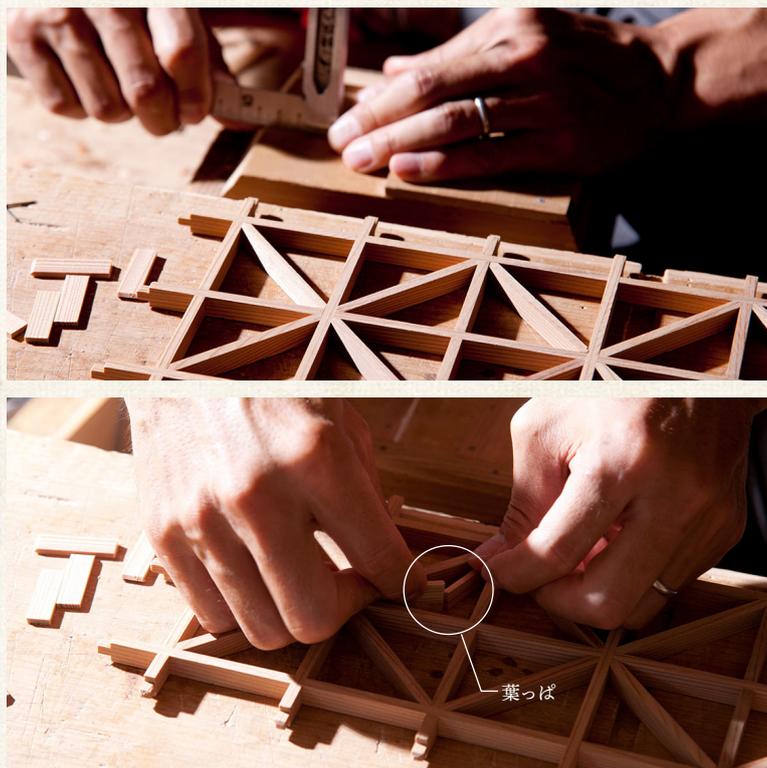
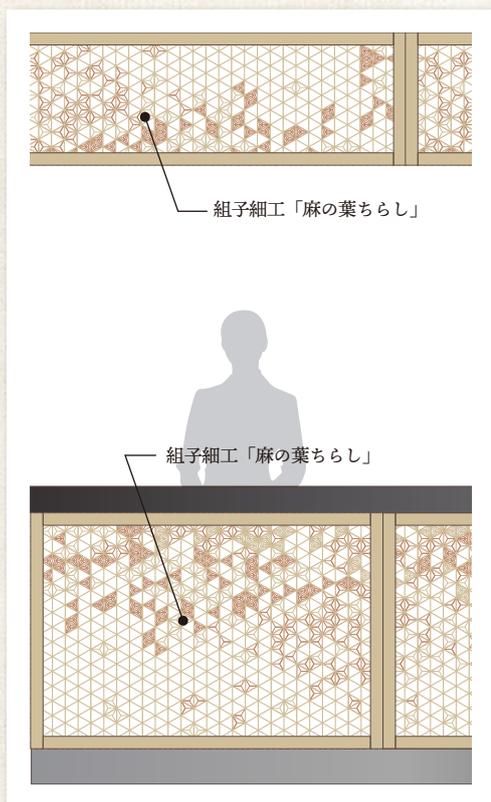
野村昂史氏プロフィール

- 1975年 青森県五所川原市生まれ。
- 2003年 スタッフとして竹浪比呂央ねぶた制作に参加。
- 2010年 竹浪比呂央ねぶた研究所に研究生として入所、竹浪比呂央に師事。
- 2014年 浅虫ねぶた「八大龍王」制作
- 2015年 浅虫ねぶた「不動信玄」制作
- 2023年 大型ねぶたデビュー

1F フロントにて展示中

組子細工

伝統木工技術「組子(組子細工)」とは、釘を使わずに木を幾何学的な文様に組み付ける木工技術のことをいいます。細くひき割った木に溝・穴・ホゾ加工を施しカンナやノコギリ、ノミ等で調節しながら1本1本組付けする繊細な技術です。格子状に組みつけた棧の中に「葉っぱ」と呼ばれる小さな木の部品を様々な形にはめ込むことで幾何学模様を表現します。



当ホテルのフロントカウンターでは、浅虫の地名の由来となった〈麻を蒸す場所〉にちなみ、「麻の葉ちらし」という文様を用いて、浅虫の春夏秋冬を表現しています。

組子製作：株式会社タニハタ

日本の伝統工芸「組子細工」にて欄間・建具を製作する株式会社タニハタ。

内閣総理大臣賞を受賞した木工技術でオーダーメイドの組子を製作。昭和34年富山市にて創業。

1F 湯上り処 祭の間にて展示中

金魚ねぶた



津軽地方に伝承されている「ねぶた祭」に欠かすことが出来ないものに「金魚ねぶた」があります。その起源は江戸時代までさかのぼり、当時、津軽地方の殿様や武士など上流階級にだけ飼育が許された津軽錦という金魚がおりました。（※現在は絶滅）そこで農民たちは、竹を丸めて骨組みを作り、紙を貼り金魚の顔を描いたものを子どもたちに与えました。それが金魚ねぶたのはじまりと言われております。金魚ねぶたは現在も、金運や幸福を呼ぶ縁起物として津軽地方で親しまれている工芸品です。



ねぶた時期に合わせて開催される金魚ねぶた列車の様子



当ホテル<湯上り処 祭の間>では、通常の約3倍サイズの金魚ねぶたを展示し、ねぶた祭の臨場感を体験することができます。是非お楽しみください。

金魚ねぶた製作：八甲民芸 青森市で民芸品の金魚ねぶたを製作。特注制作にも対応。

各階エレベーター扉にて展示中

歴代受賞 ねぶた写真



2022年 優秀制作者賞

青森県板金工業組合

『毘沙門天と吉祥天』

作：北村 春一



2023年 観光コンベンション協会会長賞

日立連合ねぶた委員会

『新田義貞伝説 龍神へ太刀を捧ぐ』

作：北村 蓮明



2013年 ねぶた大賞

日立連合ねぶた委員会

『于吉仙人、小霸王を倒す』

作：北村 蓮明



2023年 知事賞

J Rねぶた実行プロジェクト

『強弓島の為朝』

作：竹浪 比呂央

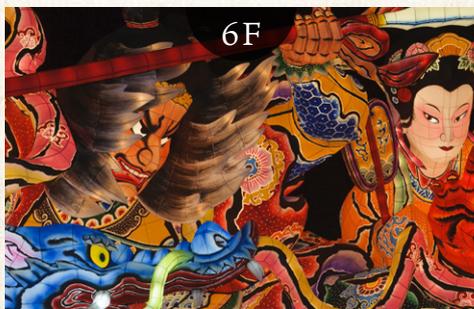


2014年 ねぶた大賞

サンロード青森

『戦国武士華「前田慶次」』

作：千葉 作龍



2014年 知事賞

青森菱友会

『大間の天妃神 千里眼と哪吒』

作：竹浪 比呂央



2023年 市長賞

NTTグループねぶた

『釈迦降誕』

作：北村 春一



2023年 商工会議所会頭賞

青森県板金工業組合

『火雷天神 菅原道真』

作：北村 春一



2023年 ねぶた大賞

青森菱友会

『牛頭天王』

作：竹浪 比呂央



2009年 ねぶた大賞

日立連合ねぶた委員会

『水滸伝 樊瑞、公孫勝に挑む』

作：北村 蓮明